

一般質問・質疑の概要

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
1	質問 (一問一答)	13 土田 友雄	<p>1 市政バスについて</p> <p>(1) 町内会のコミュニケーションにも役立っていた市政バスを、なぜ廃止したのか問う。</p> <p>(2) 市政バスは個人では見学しにくいところを町内会単位で視察研修できた、大変行き届いた行政サービスであった。 運用上の不備があるのであれば、新たに運用規則を作成すればよいのではないか。市政バスは再運行をするべきではないか。 また、町内会単位での申し込みが少ないのであれば、市役所発着で不定期でも運行できないものか合わせて問う。</p> <p>2 食育について</p> <p>(1) 食育とは「食べる」という面から食事、食材の知識、食事の環境、食の周辺など、広い視野で「食」について学んだり考えたりすることである。 食育は、学校だけでなく、家庭、地域をはじめとした社会全般のテーマとして考えることが大事であり、健康を増進し、活みなぎる明るいまちづくりを実現するための基本と考える。 これからの食育についての取り組みを問う。</p> <p>3 出前教養講座マイタウン塾について</p> <p>(1) マイタウン塾をなぜ廃止したのか問う。</p> <p>(2) 町内会のコミュニケーションに役立つマイタウン塾の今後の方向性について問う。</p> <p>4 防災について</p> <p>(1) 21年ほど前に大雨が降り、野々市市各所であわやと思われるような洪水があった。 その時の雨量は何ミリであったか。</p> <p>(2) 昔の野々市市は、周りの田園が貯水池の役割を果たして安心という一面もあった。 しかし、現在は区画整理が進み、宅地が増え雨水を貯めておくための調整池が作られているが、初期に工事が行われた区画整理地内では、調整池が設置されていないところもあると聞く。 総合的に見て、市の防災体制は何ミリの雨量まで大丈夫なのか問う。</p> <p>(3) 先般、防災訓練が実施され、朝8時前に約百名の市民の方と一緒に公園に集合して待機していたが、防災無線が鳴らず、拍子抜けした。 市の情報の把握と伝達の体制に問題はないのか、問う。</p> <p>5 市政ふれあいミーティングについて</p> <p>(1) 本市が住みやすい、住んでよかった街であることは多くの市民が認めている。成熟したまちづくりには市民と直接対話することにより政治、市政を身近に感じる大切だと思う。「市政ふれあいミーティング」は、すべて市長の思いで話し、時には各部長を一人随行させ市民と向き合う姿勢等を市民に話すべきだと思う。市民と向き合う、開かれた行政をアピールしていただきたい。これからの「市政ふれあいミーティング」の抱負を問う。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）	
2	質問 (総括)	4 向田 誠市	1 野々市認定ブランド品第二号及び第三号について	
			(1)	栽培面積の減少に伴い収穫量も減少している中、キウイフルーツワインを野々市市認定ブランド品第三号に選ばれた経緯をお伺いします。
			(2)	野々市農業協同組合で「新規キウイフルーツ棚設置要綱」開設で収穫量確保に向けて努力されておられます。収穫量及び会員の減少が続く中、行政として今後どう対策対応を検討されますか。検討される対策対応の内容をお伺いします。
			(3)	野々市農業協同組合で、キウイフルーツワインの醸造が出来るような収穫量が望めなくなった場合、認定ブランド品としての廃止を検討しなければいけない時期が来るかも知れません。その場合、廃止基準設定をどう検討されるのかお伺いします。
			(4)	野々市市として、野々市認定ブランド品第二号として認定された訳ですから、飲まれた皆様方の貴重なご意見を野々市農業協同組合と検討改善し、今後更なる商品開発をお考えなのか否かをお伺いします。
			(5)	以前、前市議会議員さんの一般質問の答弁で、「ふるさと納税の返礼品に野々市認定ブランド品を考えています。」と答弁されましたが、今後、返礼品として考えた場合、第二号、三号品は問題なく末永い継続が望めると思われておられるのか如何かをお伺いします。
			2 野々市市農業施策について	
			(1)	野々市市の農業施策についてどう考えておられるのか、また農業施策が進まない場合、野々市市全域を市街化区域に編入するお考えがあるかをお伺いします。
			(2)	野々市認定ブランド品の今後を見据えた場合、農業施策は必要不可欠だと思いますが、お考えをお伺いします。
			(3)	今後、近隣の市との間で、農業施策に於けるOEMを検討されるお考えがあるかいかをお伺いします。
			(4)	野々市農業協同組合では6次産業化に向けて加工施設がオープンしました。加工施設において色んな加工農産物品が開発されるのではと期待しておりますし、その中から次世代を担う野々市認定ブランド品が開発されん事を願うが、行政として今後6次産業化に向けてどう係わりを持たれ、野々市認定ブランド品に結び付けて行かれるのかお伺いします。
			3 末松廃寺跡公園について	
			(1)	末松廃寺跡からの出土品について、資料館を建てて展示し、市民や子供達が集う勉強の場、市民の憩いの場及び観光客の誘致を図るような史跡公園にするお考えがあるか如何かをお伺いします。
			(2)	私の地区内でも市街化に向けた動きがあるかのようにお聞きしております。そこで、野々市市として末松廃寺跡公園を含めた「道の駅」の開発等を提案しますが、栗市長のご所見をお伺いします。

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
3	質問 (一問一答)	14 大東 和美	<p>1 魅力ある図書館をさらに居心地の良いものに</p> <p>(1) 2017年11月1日にオープンしたカレードの中に、一つ何か趣を感じさせる古いものを置いてはどうか。伝統文化の継承と共に、新しい中に趣を感じさせる古いものがあることで、高齢者には少し落ち着きを感じ居心地が良くなるのではと思うが、市長の見解を伺う。</p> <p>2 超高齢社会の図書館の役割について</p> <p>(1) 図書館が超高齢社会においてできること、しなければならないことはさまざまあるが、「高齢者の社会参加の促進」及び「認知症に対する偏見の低減、解消」という二つの役割に取り組むことについて、市長の見解を伺う。</p> <p>3 古本で図書館に寄付を募ってはどうか</p> <p>(1) 図書館に貢献したいと思っている人の善意を受けられる仕組みとして、古本募金の取り組みを行ってはどうか。</p> <p>4 市民学習センターのキッチンスタジオの稼働率を上げるための今後の対策について</p> <p>(1) 各公民館や女性センターにも調理室が設置されていることから、市民学習センターのキッチンスタジオは、独自性が問われるとともに、今後の稼働率の推移も心配になる。他の施設と重複しているキッチンスタジオの使用目的を広げる考えはないか伺う。</p> <p>5 発想の転換による投票率向上の取り組みについて</p> <p>(1) 投票率の向上に向けた取り組みとして、連れてくる発想から、出向いていく発想に転換し、より投票しやすい環境づくりを行ってはどうか。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
4	質問 (一問一答)	5 北村 大助	<p>1 財源確保について</p> <p>(1) 先日、県は県内19市町の2018年度普通会計決算を発表しましたが、本市の経常収支比率が、県内ワースト2位の数値でありました。財政構造の硬直的な状況が続く恐れがある中で、財政健全化を図ることが喫緊に取り組まなければならない課題であると考えます。来年度の予算編成においてどのようなことを特に意識しているのか、市長の所見を伺います。</p> <p>(2) ふるさと納税返礼品について関係機関との協議の進捗を伺います。いつ頃より実施を見込んでいるのか、市長の所見を伺います。</p> <p>(3) 本市の事業の中で、ガバメントクラウドファンディングを活用出来る事業はないのか、所見を伺います。どの事業に対して、いつ頃から実施を予定しているのか市長の所見を伺います。</p> <p>(4) ネーミングライツの導入を早期に取り入れる必要があると考えます。特にコミュニティバス「のっティ」のバス停留所に対して導入すべきと考えますが市長の所見を伺います。</p> <p>(5) 都市計画税の本来の目的を市民の方々に丁寧に説明をした上で、税率見直しを計るべきと考えますが、実施時期も合わせ、市長の決意を伺います。</p> <p>2 都市計画道路について</p> <p>(1) 既に都市計画を決定している野々市中央公園西線の道路整備が未だ未着工となっています。当該路線は、重要な役割を果たしうる路線と考えますが市長の所見を伺います。合わせて、いつ頃着手を考えているのか所見を伺います。</p> <p>3 本市の教育行政について</p> <p>(1) 今般、教育長が変わられました。大きな期待が寄せられるところではございますが、改めて、具体的にどのようなところに新教育長の手腕に期待を寄せているのか市長の見解を伺います。</p> <p>(2) 現状の課題整理の中で、喫緊に取り組まなければならない教育行政課題は何と捉えているのか所見を伺います。また、来年度以降新たに取り組んでいきたい教育行政政策はあるのか、所見を伺います。</p> <p>(3) 2021年度までの計画期間である第2次野々市市教育ユニバーサルプラン（教育振興基本計画）は第3次基本計画の策定作業に入らなければいけない時期に来ていると思いますが、どのように進めていくのか、またどのような基本計画を作っていくのか、所見を伺います。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
5	質問 (一問一答)	15 岩見 博	<p>1 「1000年に一度」の豪雨に備えた洪水・浸水災害対策について</p> <p>(1) 近年頻発する豪雨・洪水、河川の氾濫を受け、水防法が改正され、「想定される最大規模」の浸水想定を出すよう河川管理者に義務づけられた。野々市市の場合は高橋川と安原川が対象となっている。当初は「『1000年に一度の豪雨』は現実的ではない。起こりえない」という疑問視する声もあったが、今年の一連の猛烈な台風がもたらす豪雨災害で現実のこととなった。温暖化、異常気象が続く中で、猛烈な台風、豪雨災害は「想定外」で済まされなくなった。「1000年に一度」の洪水浸水想定ハザードマップでは野々市市の広い範囲が浸水区域となっている。問題はどうやって浸水被害を減らすか考えなければならない。洪水対策として、田・畑の持つ貯水力は重要で、農業を守ることを考えなければならない。野々市市の田・畑の面積と、貯水能力がどれだけあると見込んでいるか伺う。</p> <p>(2) 平成23年の犀川左岸地区総合的治水対策行動計画によると、当時の野々市町における土地開発状況は、3,000平方メートル以下の開発が6割を占め、特に1,000平方メートル～2,000平方メートルの小規模開発面積が最も多くなっている。また、開発により増加する雨水の流量低減目標を達成するために必要な野々市市の必要対策分担量から既存調整池の効果量を差し引いた対策量として、毎秒5.4 m³の流用を減らす調整池などの整備が必要としている。この目標は達成できているか。この時の県の目標は10年に一度の大雨に備え、その1割を減らす目標ですから、1000年に一度の豪雨対策としてはどうなのかといった不安もありますが、いずれにしても本市の土地開発のスピードに流量を減らす目標は達成できているのか。</p> <p>(3) 市の建築・開発指導要綱では、土地開発による調整池設置基準を、面積が3,000平方メートル以上1万平方メートル未満の場合は、野々市市小規模開発雨水排水協議基準によるとしている。3,000平方メートル未満は、河川その他公共の用に供している施設に接続するよう整備することとし、設置に当たっては、放流先の能力、その周辺の状況等により排水先の施設管理者の指示に従うこととなっていること。さらには、土地区画整理事業が施行中又は平成17年9月以降に完了した区域内において3,000平方メートル以上の土地開発を行う場合は、野々市市土地区画整理事業区域内における小規模開発雨水排水協議基準によるとしている。いずれも3,000平方メートル以下の開発は事実上設置しなくてもよいことになっているのではないかと。一つ一つはごく小さな開発だが、いつの間にか一帯がアパートや住宅が立ち並んでいる。そこから流れ出る雨水を下流部が受けることになる。「1000年に一度」の豪雨を想定して、少なくとも調整池設置基準を1,000平方メートルに引き下げ、指導要綱を改定すべきではないか。</p> <p>2 幼児教育・保育の無償化に伴う副食費の完全無償化について</p> <p>(1) 副食費の国による免除対象、市独自の免除対象はそれぞれ何人になるか。また、市独自の支援による通年での必要予算額は。</p> <p>(2) 保育料の無償化に伴って新たな仕組みで市の負担が残ることになるが、市の負担分については交付税措置が見込まれているのではないかと。来年度の見込み額は。</p> <p>(3) 措置される交付税を財源にして完全無償化に踏み出すよう強く求める。</p> <p>3 公立学校の教員に対する1年単位の変形労働時間制導入について</p> <p>(1) 政府は、公立学校教員給与特別措置法を改定して、公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入しようとしている。残業代を支払うことなく、いわゆる「繁忙期」に1日8時間、週40時間を超えて働かせることができるようにするもので、今でも深刻な平日の長時間過密労働をいっそう助長することになると学校現場からも反対の声があがっている。しかも、8時間労働制の原則を崩す労働条件の重大な変更であるにもかかわらず、一般の労働者にある時間外労働の歯止めもなく、当事者である教員の意見を反映させる労使協定なしに、自治体の条例で導入できるとしていることも大問題である。恒常的な時間外労働がなくならないし、精神疾患で休職を余儀なくされている教員、教員の過労死を目の当たりしてきた野々市市は、たとえ法案が成立したとしても変形労働時間制は導入すべきではない。(H28年度の教員の勤務実態調査も参考に)市長、教育長の考えを聞く。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
5	質問 (一問一答)	15 岩見 博	<p>4 国民健康保険税滞納世帯への支払限度額認定証の交付について</p> <p>(1) 入院などで毎月数十万円、数百万円の医療費を窓口で支払える人はほとんどいないでしょう。医療費が高額になることが見込まれる場合に必要なのが「限度額適用認定証」で、医療機関の窓口で提示すれば自己負担限度額までの負担で済むことになっている。ところが、野々市市では国保税を滞納している場合は交付されない。滞納事由の多くは収入に比べて税額が重くて払うに払えないことによるもので、滞納世帯の誰かが数十万、数百万の入院治療が必要となった場合、窓口10割負担となることから入院治療をあきらめることになる。それでよいのかが問われる。金沢市は今年から滞納世帯であっても適用認定証が交付されるようになった。県内では19の市町があるなかですでに11市町が交付するようになっている。野々市市も交付すべきではないか。</p>
			<p>5 白山市におけるイオンモール進出に伴う市の対策について</p> <p>(1) イオングループが、白山市横江町地内に北陸最大規模となるイオンモールを21年夏の開業を目標に建設を進めることが新聞で報じられた。生鮮食品をはじめ、誘致するテナント数も200程度と大きく、アミューズメントも充実させるとなっている。それに伴って、御経塚イオンは別の形態で残すとされているが、生鮮食品販売やアミューズメントが無くなれば買い物客の流れが一気に移動することになり、野々市市と地域経済にとっても大きい痛手となることが容易に想定される。しかし、手をこまねいて見ているだけではだめで、イオンモールの買い物客にどうやって野々市の方に足を運んでもらえるようにするか考える必要がある。一つは公共交通の確保が考えられる。中高大学生などの若い人、高齢者の移動手段を考えるとJR野々市駅は利便性が高い。JR野々市駅を結節点にして、例えば、のんキーバスをイオンモールまで延伸することや、のっティ（例えば西部ルートへの延伸）と白山市のめぐるの相互乗り入れなどで白山市と協議することも検討してみてはどうか。</p>
			<p>6 つばきの郷公園のあらたな駐車場の確保について</p> <p>(1) のびのびと体を動かせる広い広場と、大型遊具を備えたつばきの郷公園は子どもにも大人にも大人気。この寒い季節でも天気の良い日は多くの家族連れで賑わっている。次々と来る車も駐車できる場所を探している様子が多く見受けられ、駐車場に入りきれないで市営住宅前の道路にずらっと並んでいる光景も見受けられる。一市民としてもそれほど人気があることにうれしい気持ちになる。半面、暖かい季節には隣接する住宅のみなさんの迷惑になっていないのだろうか。そのうち苦情が寄せられることになるのではないかなどとも考えてしまう。つばきの郷公園はにぎわいを創出している公園です。横江にイオンモールができた時には買い物に行く前に家族連れが遊ぶ場所としてもっと賑わうのではないかと思う。もっと多くの家族連れに来てもらい、もっと賑わいを創り出す戦略としても、公園に来る利用者の利便性を高めるためにも、あらたな駐車場を確保できないか。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
6	質問 (一問一答)	6 馬場 弘勝	<p>1 野々市市空き家バンク制度について</p> <p>(1) 実態調査をもとに、空き家等をデータベース化した管理台帳には、どのような項目・内容が記載されているのか。また、継続的な調査・把握が必要だと考えるが、今後、どのような項目について、どのような期間、時期に空き家等の実態把握を継続的に行っていく方針なのか。</p> <p>(2) 野々市市空き家バンク制度について、広く認知されるために、今後どのような手段を考えているのか。また、本市から空き家所有者へアプローチし、空き家バンクへ登録することを積極的に進めていくべきではないか。</p> <p>(3) 全国版空き家・空き地バンクへの参加を表明し、登録することで、本市の空き家の流通活性化に取り組むべきではないか。</p> <p>(4) 定住促進と地域の活性化、起業・創業支援のために、空き家バンク制度だけではなく、空き家の購入やリフォーム、用途変更を伴うリノベーションに関する助成制度を創設すべきではないか。特に本市地内での起業・創業という観点で伺う。</p> <p>2 プログラミング教育について</p> <p>(1) いよいよ本格的に全面実施されるプログラミング教育について、プログラミング的思考を育むために、どのような考え方で進めていくのか。また、円滑なスタートに向けて、現在の準備の進捗状況を伺う。</p> <p>(2) 各学年、各教科について、具体的にどのようなカリキュラムで実施していくのか。また、様々な教材等があるが、その利用について、具体的な教材選定は進んでいるのか。</p> <p>(3) 教員がプログラミングの指導に困ることがないように、また、各学校や学級間での格差が生じないように、支援員の派遣など、教員の授業づくりをサポートする体制をどのように整えていくのか。</p>
7	質問 (総括)	1 梅野 智恵子	<p>1 民間保育施設の再公募について</p> <p>(1) 民間保育施設誘致における再公募により、これまでに公表した書類審査、公募要領の内容に変更があるのかお伺いします。</p> <p>(2) 新たな民間保育施設が開園した際、同じ押野地内にある押野保育園の定員について今後の方針を伺います。 定員を減らす場合、園児の定員増加で保育スペースを確保するため、現在休止している「子育て支援センター押野」を再開する予定があるのか考えをお伺いします。</p> <p>2 御園小学校の児童玄関の現況と学校施設の整備について</p> <p>(1) 御園小学校の児童玄関を実際ご覧になった所見をお伺いします。</p> <p>(2) 御園小学校の児童玄関整備に限らず、本市小中学校の今後における学校整備をはじめとした、教育予算の確保をどのようにお考えか所見をお伺いします。</p> <p>3 子ども110番の家について</p> <p>(1) 現在野々市市内192軒の登録の内、コンビニエンスストアやガソリンスタンドなど事業者と民家の登録、それぞれ何軒ずつとなっているのかお伺いします。また、これまで本市の子供たちによる子ども110番の家の利用件数と事例があればお尋ねします。</p> <p>(2) 本市学校指導で子供たちや保護者たちに子ども110番の役割や場所への周知をどのようにされているのかお尋ねします。</p> <p>(3) 他県の自治体の取り組みの例にもあるような子供たちの防犯安全対策を、地域ネットワークの強化をはじめ、啓発、発信など本市でできることを推進していくべきと考えるが所見を伺います。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
8	質問 (一問一答)	8 西本 政之	<p>1 庁舎内温度管理について</p> <p>(1) 来庁者に対する住民サービスの向上と、働き方改革の時間外勤務の抑制に影響すると考えられることから、庁舎内の設定温度の見直しをすべきと考えるがいかがか。</p> <p>2 たちの放課後児童クラブについて</p> <p>(1) 学校敷地内に移転した、放課後児童クラブすがはらの例を十分に参考にして、設計・建築すべきと考えるがいかがか。</p> <p>3 学校現場の抱える問題について</p> <p>(1) 来年度から小学校の英語が教科化され、更に業務量が増加することが予想される。小学校各校に一名ずつの英語専任の教職員を配置すべきと考えるがいかがか。</p> <p>(2) 多くの問題の根底には、絶対的な人員不足があると感じる。市独自の採用で、教職員、支援員、校務士、図書館司書、スクールサポートスタッフ等の増員が必要と考えるがいかがか。</p>
9	質問 (一問一答)	7 安原 透	<p>1 旧北国街道景観条例の策定について</p> <p>(1) 歴史的な町並み保存と再生は時間との戦いである。北国街道のにぎわい創出と魅力を磨いていくことにもつながる、「歴史的町並みの保存と再生につなげるための景観条例の策定」について、本市が主体となって「北国街道」の景観をしっかりと守っていくことを推進する、進めていくべきと考える。栗市長の所見を伺う。</p> <p>2 北国街道にぎわい創出プロジェクトについて</p> <p>(1) 庁内を横断して新しい事業を生み出していくためには、庁内横断の協力体制が必要だと思うが、具体的な連携の在り方について伺う。また、「北国街道にぎわい創出プロジェクト」の今年度における、これから予算を執行するプロジェクトの具体について、また、最終年度の本年度は交付金が次年度以降なくなるということも踏まえて、各所管で行う予定の事業内容とその効果について、栗市長の所見を伺う。</p> <p>(2) カミーノ、カレード二つの拠点施設の在り方がにぎわい創出を生み出すと考える。とりわけ、カミーノ全体を所管する生涯学習課が従来の生涯学習事業にとらわれず、市民活動やにぎわい創出事業と連携した新たな生涯学習活動が求められるかと考える。庁内を横断して新しい事業を生み出していくために、生涯学習課を中心にどのような連携体制を構築してきたか、また合わせてカミーノの生涯学習機能を中心に市民活動機能、民間商業施設機能と連携させながら、より魅力あるにぎわいの拠点となるよう開館して9か月の成果と課題について、また今後の具体的な取り組みについて、栗市長の所見を伺う。</p> <p>3 野々市ブランド認定の今後のあり方と方向性について</p> <p>(1) 本市の「野々市ブランド認定制度」において現在は、特色ある商品のうち特に優れたものを「野々市ブランド」として認定する制度になっているが、もっと幅広い分野に間口を広げた「野々市ブランド認定制度」にすべきと考える。栗市長の所見を伺う。</p> <p>4 2023年春開業予定の北陸新幹線金沢—敦賀間 本市新幹線防音壁について</p> <p>(1) 本市を通過する北陸新幹線を市民の皆さまが見ることの出来るように、また新幹線から本市が見えるように、今設置されている防音壁を透明防音壁に改修をすべきである。本市として市民の皆さまに北陸新幹線に親しむことの出来る場所を創るべきだと考える。栗市長の所見を伺う。</p> <p>(2) 今あるものを改修することはとてもハードルが高いかも知れないが、しかし、今、しなければ、新幹線が2023年春開業してからでは2度とその機会は無いと考える。白山総合車両基地までの線路が計画段階で防音壁について、本市として要望してダメだったということであれば再度要望ということにはならないのかと考える。そもそも要望していないのであれば、本市として市民の皆さまに北陸新幹線に親しむことの出来る場所を要望していくべきだと考える。栗市長の所見を伺う。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
10	質問 (総括)	3 小堀 孝史	<p>1 防犯対策について</p> <p>(1) 昨年3月、金沢市役所の本庁舎内で発生した外部侵入者による傷害事件を受け、野々市市役所ではいち早く、庁舎防犯訓練を4月5日に実施し、同時にさすまたを庁舎の各階に増設配備するなど、職員の防犯意識を高め、職員や来庁者の安全を確保するため迅速に対策を講じたことは大変よかったと思います。</p> <p>今年の10月15日には、金沢市役所で72歳の男が会議室で職員との相談中に刃物で職員を脅す事件が発生しました。隣接する金沢市の庁舎内で続発した事件を踏まえ、事件を未然に防止しつつ被害を最小限に食い止める、より強固な対策が必要と考えます。</p> <p>事件発生時に職員がスイッチを押すだけで警察へ緊急通報できるよう本市庁舎の各棟の適切な場所に「非常用通報装置」を導入する考えはないか伺います。</p> <p>(2) また、多くの市民が利用する保健センターやカレード、カミーノ、市民体育館、保育園に「非常用通報装置」を導入する考えはないか伺います。</p> <p>(3) 私立の保育園や学童保育施設についても、各園、各施設からの申請に応じて導入費用を補助するなど漏れのない対策を講ずる必要があると思いますが市長の考えを伺います。</p> <p>2 自転車の通行環境の整備について</p> <p>(1) 私たちが暮らす野々市市は、市内全体がコンパクトで平坦な地形であります。自転車を使用すると1周1時間程で移動可能な本市であることから、通学・通勤及び市内散策においても快適な自転車通行環境にあると言えます。</p> <p>そこで、本市では第一次総合計画を補完する分野別計画の一つとして「自転車ネットワーク計画（仮称）」を策定することとしています。</p> <p>高校生や中学生が安全安心に自転車通学できる環境の確保が重要です。</p> <p>本市には、南北に流れる林口用水と木呂川沿いに設置されている自転車歩行者専用道などがありますが、車道の路面表示による自転車専用通行帯の設置が必要と考えます。</p> <p>市民が各居住地区から商業エリアへの移動、また、居住地区から公園・スポーツ施設などを結ぶ面的な関係づくりがより必要になります。</p> <p>これまで構築を目指してきた「自転車ネットワーク計画（仮称）」の策定に向けた進捗状況を教えていただきたい。</p> <p>(2) また、車道部における自転車専用通行帯の設置など、今後、自転車通行環境の整備計画がありましたら教えていただきたい。</p>